

学校感染症と出席停止基準

○第1種【出席停止期間：治癒するまで】

エボラ出血熱・クリミアコンゴ出血熱・痘そう・南米出血熱・ペスト・マールブルグ病・ラッサ熱・急性灰白髄炎(ポリオ)・ジフテリア・重症急性呼吸器症候群・中東呼吸器症候群・特定鳥インフルエンザ

○第2種【出席停止期間：下記のとおり】

病名	出席停止期間	主な症状	感染経路	潜伏期間	感染可能期間	予防方法	好発季節
インフルエンザ	発症した後5日を経過し、かつ、解熱した後2日(幼児にあっては、3日)を経過するまで	悪寒、頭痛、高熱(39～40℃)、咳、鼻汁、倦怠感、腰痛、筋肉痛、消化器症状(嘔吐、下痢、腹痛)	飛沫接触	1-4日 平均2日	発熱1日前～3日目にピーク7日目まで	うがい、手洗い、マスク、予防接種	冬 12～3月
百日咳	特有の咳が消失するまで又は5日間の適正な抗菌性物質製剤による治療が終了するまで。	病初期から連続して止まらない咳、発熱は少ない	飛沫接触	主に7-10日	咳が出現してから4週目頃まで	予防接種	春～夏
麻疹(はしか)	解熱した後3日を経過するまで。	カタル期(咳・鼻水・眼球結膜充血・頬粘膜コブ・リック斑・発熱)→発疹期→回復期を経る。カタル期が最も感染力が強い。発疹は耳の後ろから顔面にかけて出て、身体全体に広がる。	空気飛沫接触	8-12日	発熱出現の前日から解熱後3日経過するまで	予防接種	海外から輸入例を発端に集団発生
流行性耳下腺炎(おたふく)	耳下腺、顎下腺又は舌下腺の腫脹が発現した後5日を経過し、かつ、全身状態が良好になるまで。	片側～両側の耳下腺、顎下腺、舌下腺の痛みを伴う腫脹。腫れは2～3日がピーク3～7日で消失。	飛沫接触	16-18日	耳下腺等の腫脹1～2日前から腫脹後5日	予防接種(任意)	春～夏
風疹(三日はしか)	発しんが消失するまで。	発熱、発疹、耳の後ろ・首・腋窩などが腫れる。咳、結膜充血。	飛沫接触	16-18日	発疹の出る前7日～出た後7日間	予防接種	秋～冬
水痘(みずぼうそう)	すべての発しんが痂皮化するまで。	発疹は体と首のあたりから顔面に生じやすく紅斑、水疱、膿疱、かさぶたの順に変化。発熱しない例も。	空気飛沫接触	14-16日	発疹の出る1～2日前から全て痂皮化するまで	患者の隔離 予防接種	冬～春
咽頭結膜熱(プール熱)	主要症状が消退した後2日を経過するまで。	高熱(39～40℃)、咽頭痛、頭痛、食欲不振、咽頭発赤、頸部、後頭部リンパ節腫脹、眼症状(充血等)。	飛沫接触	2-14日	初期数日が最も多いが便からは数ヶ月排出	手洗い、うがい、プール前後のシャワー、タオル貸し借りしない	夏～秋
結核	病状により学校医その他の医師において感染のおそれがないと認めるまで。	咳、痰、倦怠感、微熱、進行すると寝汗、発熱、血痰、呼吸困難	空気飛沫	2年以内 特に6ヶ月以内		BCG接種 X線による早期発見	なし
髄膜炎菌性髄膜炎	病状により学校医その他の医師において感染のおそれがないと認めるまで。	発熱、頭痛、意識障害、嘔吐。時に劇症型感染症(致命率10%)	飛沫接触	主に4日以内	有効な治療を開始して24時間経過するまで	ワクチン	なし
新型コロナウイルス感染症	発症した後5日を経過し、かつ、症状が軽快した後1日を経過するまで	咽頭痛、発熱、咳、痰、頭痛、筋肉痛、呼吸困難、倦怠感、味嗅覚障害、消化器症状	飛沫接触	2-7日	発症2日前～発症後10日	うがい、手洗い、マスク、予防接種	

○第3種【出席停止期間：下記のとおり】

病名	出席停止期間	症状	感染経路	潜伏期間	感染経路 感染可能期間	予防方法
コレラ	治癒するまで	突然激しい水様性下痢と嘔吐、脱水	経口	1-3日	感染者の便、汚染された水、食料	
細菌性赤痢	治癒するまで	発熱、腹痛、しぶり腹、膿粘血便、下痢、嘔吐	経口	1-3日		
流行性角結膜炎	医師において感染の恐れがないと認められるまで	急性結膜炎の症状で、結膜充血、まぶた腫脹、異物感、流涙、眼脂、耳前リンパ節腫脹	接触	2-14日	眼の症状が軽減してからも感染力が残ることあり。	手洗い。タオルの共用は×
急性出血性結膜炎	医師において感染の恐れがないと認められるまで	眼球結膜出血、結膜充血、まぶた腫脹、異物感、流涙、眼脂、角膜びらん	接触	24時間 2-3日	結膜擦過物から1～2週間	手洗い、分泌物に触れない
腸管出血性大腸菌感染症(O-157)	医師において感染の恐れがないと認められるまで	水様性下痢、腹痛、血便。なお、乏尿、出血傾向、意識障害は速やかに病院	接触 経口	10時間-6日	便中に菌が排出されている間	手洗い、トイレ消毒
腸チフス パラチフス	治癒するまで	持続する発熱、発疹(バラ疹)などで発病。重症例では腸出血・腸穿孔	接触 経口	7-14日		手洗い

○その他の感染症【第3種の感染症として扱うことあり】

学校で通常見られないような重大な流行が起こった場合に、その感染拡大を防ぐべき必要があるときに限り校長が第3種の感染症として緊急的に措置をとるものとして定められる。そのため、下記に記した感染症は必ず出席停止を行うべきというものではない

病名	出席停止期間	主な症状(潜伏期間など)	病名	出席停止期間	主な症状(潜伏期間など)
感染性胃腸炎(ノロ・ロタ・アデノ)	全身状態が良い者は登校可	嘔吐下痢が主症状。飛沫・接触・経口感染。と物にもウイルス多量	溶連菌感染症	抗菌薬内服24時間後、登校可能	発熱、咽頭痛、咽頭扁桃の腫脹や化膿、頸部リンパ節炎、
サルモネラ感染症 カンピロバクター感染症	下痢が軽減すれば登校可能	食中毒による急性細菌性腸炎。下痢、血便、嘔吐、発熱。	伝染性紅斑(りんご病)	発疹期には感染力なし。	かぜ様症状の後に、顔、頬に蝶のような形の紅斑、手足にはレース状の紅斑。
マイコプラズマ感染症	症状改善し、全身状態の良い者は登校可	咳、発熱、頭痛などのかぜ症状がゆっくり進行。時に咳が徐々に激しくなる。潜伏2～3週間。	RSウイルス感染症	症状安定後全身状態が良ければ登校可	発熱。鼻汁、咳、喘鳴。
肺炎球菌感染症	症状安定、全身状態が良ければ登校可	上気道炎、気管支炎、急性口蓋炎、肺炎、敗血症、結膜炎、中耳炎	アタマジラミ、伝染性軟属腫(水いぼ)、伝染性膿痂疹(とびひ)など		登校しながらの治療が可能。

新型コロナウイルス感染症・インフルエンザ 出席停止期間早見表

新型コロナウイルス感染症

★発症日から5日間経過し、かつ、症状軽快後 1 日を経過するまで

★無症状の場合は、検査を受けた日から 5 日間経過するまで

※症状軽快とは、解熱剤を使用せずに、解熱しており、呼吸器症状が改善傾向である場合をいいます。

0日	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	8日	9日	10日
月日	月日	月日	月日	月日	月日	月日	月日	月日	月日	月日
発症日		症状軽快	症状軽快 持続	症状軽快 持続	症状軽快 持続	登校可能				
発症日			症状軽快	症状軽快 持続	症状軽快 持続	登校可能				
発症日				症状軽快	症状軽快 持続	登校可能				
発症日					症状軽快	症状軽快 持続	登校可能			
発症日						症状軽快	症状軽快 持続	登校可能		
発症日							症状軽快	症状軽快 持続	登校可能	
発症日								症状軽快	症状軽快 持続	登校可能

10日経過するまで
マスク着用を推奨

インフルエンザ

★発症した後5日を経過し、かつ解熱した後2日（幼児においては3日）を経過するまで

0日	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	8日
月日	月日	月日	月日	月日	月日	月日	月日	月日
発症日	解熱 0日目	解熱 1日目	解熱 2日目			登校可能		
発症日	熱あり	解熱 0日目	解熱 1日目	解熱 2日目		登校可能		
発症日	熱あり	熱あり	解熱 0日目	解熱 1日目	解熱 2日目	登校可能		
発症日	熱あり	熱あり	熱あり	解熱 0日目	解熱 1日目	解熱 2日目	登校可能	